

所員活動一覽（二〇一四年一月一日～二〇一五年三月三十一日）

荒木 浩

● 著書

『高等学校 古典B』（伊井春樹他と共著、富永一登他と共編）第一学習社 二〇一五年二月 四一六頁

『高等学校 古典A 大鏡・源氏物語・諸家の文章』（伊井春樹他と共著、富永一登他と共編）第一学習社 二〇一五年二月 一九二頁

● 論文

「かへりきにける阿倍仲麻呂―『土左日記』異文と『新唐書』―」倉本一宏編『日記・古記録の世界』思文閣出版 二〇一五年三月 三八三～

三九六頁

「阿倍仲麻呂婦朝伝説のゆくえ―『新唐書』と『今昔物語集』そして『土左日記』へ」劉建輝編『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題

「ベトナムシンポジウム 二〇一三」『国際日本文化研究センター』二〇一五年三月 四五～五八頁

● その他の執筆活動

「背伸びと軽さの限界点―海外で古典を伝えること」『リポート笠間』五七号 笠間書院 二〇一四年一月 二二～二六頁

「夢―古人は『夢』といかにしてつきあってきたか―」『怪』vol. 0043 株式会社KADOKAWA 三〇一四年二月 三四～三七頁

磯前順一

● 著書

『ザ・タイガース研究論―昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析』（黒崎浩行と共編著）近代映画社 二〇一五年三月

二一〇頁

伊東貴之

● 論文

「清朝考証学の再考のために——中国・清代における『尚書』をめぐる文献批判とその位相、あるいは、伝統と近代、日本との比較の視点から——」
 笠谷和比古編『徳川社会と日本の近代化』思文閣出版 二〇一五年三月 六〇九〜六二四頁

● その他の執筆活動

「海外文学・文化回顧二〇一四『中国』とは何か？／どう向き合うべきか？——更新しつつ、回帰する、古くて新しい問い」『図書新聞』第
 三一八七号 二〇一四年二月二〇日号

稲賀繁美

● 論文

「『あいだ』はどこから出現したのか？『あいだ』には何が堆積するのか？——日本の木造建築をめぐるふたつの国際シンポジウムから」(上)
 『あいだ』二一六号(連載第一〇五) 二〇一四年一月 二二〜二五頁、(下) 二一七号(連載第一〇六) 二〇一四年一月 二五〜二九頁
 「生皮を剥がれた『バッタもん』——烙印と脱皮あるいはグローバル時代の商標と複製権 赤瀬川原平に捧げる——漢陽大学校『グローバル時代と東アジアの表象』会議(二〇一五年二月六〜七日)より」『あいだ』二一八号(連載第一〇七) 二〇一五年二月 三二〜三五頁
 「十二支 未——『牧畜の異郷』の家畜 日本美術における羊と、その代理としての山羊」『あいだ』二一九号(連載第一〇八) 二〇一五年三月 一八〜二三頁

「表現主義と気韻生動——北清事変から大正末年に至る橋本関雪の軌跡と京都支那学の周辺」『日本研究』第五一集 国際日本文化研究センター
 二〇一五年三月 九七〜一二五頁

「画中画雑考」『人間文化研究機構研究』『画中画の世界』(The Cosmos in *Gakuyū-ga*: Pictures in Pictures) 研究会議事録』国立民族学博物館
 二〇一五年三月(頁表記なし)

「翻訳と憑依あるいは翻訳の骨折と骨折の翻訳」『比較日本学教育研究センター研究年報』第一一号 お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター

二〇一五年三月 七四～九四頁

●その他の執筆活動

「序文」『うつわ(器)と「うつし(写)」うつろいゆく形の生命…モノのかたちの霊的伝幡をめぐる新たなパラダイムにむけて』展示会冊子
«Receptacle du passage: ou la vie transitoire des formes et ses empreintes: vers un nouveau paradigme de la transmission spirituelle des formes physiques» du 20 au 24 janvier 2015, Maison de la culture du Japon à Paris, Halle d'accueil (rez-de-chaussée) パリ日本文化会館

「フランス的知性の裏切り」『日仏文化』八四号「浜沢・クロード賞三〇周年記念号」日仏会館 二〇一五年三月 七二～七四頁

「台湾における満州地域文化研究の現状警見…備忘録ノート」郭南燕編『世界の日本研究二〇一四 日本研究の隆盛』国際日本文化研究センター

二〇一五年三月 一七七～一八六頁

「文化科学研究科 学術交流フォーラム2014 成果警見と将来への展望」総合研究大学院大学文化科学研究科平成二六年度学生企画委員編

『総合研究大学院大学 文化科学研究科学術交流フォーラム二〇一四 活動報告書』総合研究大学院大学文化科学研究科 二〇一五年三月

一二五～一二六頁

井上章一

●著書

『現代の建築家』エーディーエー・エディタ・トーキョー 二〇一四年一月二五日 五〇四頁

『性欲の研究 東京のエロ地理編』（三橋順子と共編）平凡社 二〇一五年三月 二八八頁

『建築と権力のダイナミズム』（御厨貴と共編）岩波書店 二〇一五年三月 三四二頁

『DVD 京都・祇園祭～至宝に秘められた謎～』（栗山千明・小倉久寛と共演）NHKエンタープライズ 二〇一五年三月

●その他の執筆活動

「書評 鈴木了二著『寝そべる建築』」『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一四年一〇月一日

「書評 赤川学著『明治の「性典」を作った男』」『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一四年一〇月二二日

- 「都市と建築」猪木武徳・マルクス・リュッターマン編書『近代日本の公と私、官と民』NTT出版 二〇一四年一〇月 三八四～三九九頁
- 「負けおしみと勝ちまどい」共同配信 二〇一四年一月上旬
- 「書評 池川玲子著『ヌードと愛国』『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一四年一月二日
- 「書評 犬の名前『ポチ』 幕末以後に登場したピジン英語説 仁科邦男著『犬たちの明治維新 ポチの誕生』『週刊ポスト』二〇一四年二月一四日号
- 「マンガは光琳を超える」公益財団法人サントリー文化財団・アステイオン編集委員会編『アステイオン』八一 二〇一四年一月
- 「中島岳志が、『中村屋のボース』で、ふれなかったある一点について」『書碧・梁山泊月例読書会』二〇一四年一月
- 「書評 佐々木克著『幕末史』『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一四年二月三日
- 「帯」岡田暁生・フィリップ・ストレンジ著『すごいジャズには理由がある』第三版 アルテスパブリッシング 二〇一四年二月
- 「書評 玉木俊明著『海洋帝国興隆史』『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一四年二月二四日
- 「回顧二〇一四 私之三冊」『日本経済新聞』 二〇一四年二月二八日
- 「顔の値段―男と女のあいだには― 現代風俗研究会年報第三四号『かお―現代風俗』国際文化学園国際文化出版局 二〇一四年二月
- 「和をもって尊しとする」民族の街並みとは思えない光景『京都新聞』 二〇一五年一月一日
- 「中年からの『音楽学習者』へ」『週刊ポスト』二〇一五年一月九日号
- 「書評 佐々木敦著『ニッポンの音楽』『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一五年一月二日
- 「書評 芳醇馥郁たる人文学の香りが堪能できる文芸史研究書 前田恭二著『絵のように―明治文学と美術』『週刊ポスト』二〇一五年一月三〇日号
- 「書評 小泉和子編『昭和の結婚』『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一五年二月一八日
- 「あの日・あの味 マンガとカレー」『望声』二〇一五年三月号 東海教育研究所 二〇一五年二月
- 「目利き二九人が選ぶ二〇一四年私のオススメ新書」『中央公論』二〇一五年三月号 二〇一五年二月
- 「書評 輪島裕介著『踊る昭和歌謡』『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一五年三月一日

「タイガースという名がうかぶまで」磯前順一・黒崎浩行編『ザ・タイガース研究論—昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析』近代映画社 二〇一五年三月 一六八〜一六九頁

「嵯峨に住む子の誇りと寂しき」『週刊朝日』 二〇一五年三月二〇日

「エッチな街の盛衰史」「オロフ・エリクソン・ウィルマンに、井上筑後守政重がときめいた日のこと」「対談 原武史×井上章一」「エロ地理三題噺——皇居前広場、電車の痴漢、団地妻」井上章一・三橋順子編『性欲の研究 東京のエロ地理編』平凡社 二〇一五年三月

「あとがき」御厨貴・井上章一編『建築と権力のダイナミズム』岩波書店 二〇一五年三月 三二五〜三二九頁

「書評 芸妓学校も手がけた上方の老舗料亭に息づく『志』」神崎宣武者『大和屋物語』『週刊ポスト』二〇一五年三月二七日号

「都市と建築に、どういう歴史を感じるか」『建築と日常』三・四合併号 二〇一五年三月

「ベリーがくるまでは、やはり鎖国である—オランダ商館日記から—」倉本一宏編『日記・古記録の世界』思文閣出版 二〇一五年三月

「東南アジアの民族建築から、日本列島の建築史を読みなおす」劉建輝編『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題』「ベトナムシンポジウム

二〇一三」『国際日本文化研究センター』二〇一五年三月 九七〜一〇二頁

「書評 島蘭進ほか編『コスモロジーの「近世」』」他書評四点 共同通信文化部編『書評大全』三省堂 二〇一五年三月

櫻本 涉

● 論文

「建長寺船の派遣とその成果」村井章介編『東アジアのなかの建長寺 宗教・政治・文化が交叉する禅の聖地』勉誠出版 二〇一四年一月
二〇〇〜二二二頁

「日記と僧伝の間—『空華日用工夫略集』の周辺—」倉本一宏編『日記・古記録の世界』思文閣出版 二〇一五年三月 八五〜九七頁

● その他の執筆活動

「書評 檀上寛著『明代海禁—朝貢システムと華夷秩序』」『日本史研究』六二九号 二〇一五年一月 四九〜五七頁

郭南燕

● 著書

『世界の日本研究二〇一四 日本研究の隆盛』（編集）国際日本文化研究センター 二〇一五年三月

● 論文

「大正博覧会の『台湾館』の観方―志賀直哉を中心に―」張季琳編『日本文学における台湾』中央研究院人文社會科學研究中心 二〇一四年一〇月 二〇九〜二一四頁

「外国人の日本語文学―国際語への歩み―」『比較日文学教育研究センター研究年報』第一号 お茶の水女子大学比較日文学教育研究センター 二〇一五年三月 六五〜七三頁

「上海語話者の『言文不一致』舌を肥やし、耳を養う」阿部健一監修『五感／五環 文化が生まれるとき』昭和堂 二〇一五年三月 五二〜五七頁

北浦寛之

● 論文

「『木島則夫ハブニング・ショー』の記録」『ザ・タイガースと映画』磯前順一・黒崎浩行編『ザ・タイガース研究論―昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析』近代映画社 二〇一五年三月 四二〜四三頁、一二四〜一三〇頁

「時代劇映画における『立回り』の転換点―黒澤作品の以前と以後」劉建輝編『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題』〔ベトナムシンポジウム 二〇一三〕国際日本文化研究センター 二〇一五年三月 一五二〜一五八頁

倉本一宏

● 著書

『人があるく 紫式部と平安の都』吉川弘文館 二〇一四年一〇月 一五〇頁

『平安朝 皇位継承の闇』角川学芸出版 二〇一四年二月 二〇八頁

『日記・古記録の世界』（編著）思文閣出版 二〇一五年三月 七七七頁

● 論文

「古記録の裏書について―特に『御堂関白記』自筆本について―」『日記・古記録の世界』思文閣出版 二〇一五年三月 一三五～一七四頁

● その他の執筆活動

「カラとコマ」―平安時代の異国『国立歴史民俗博物館国際企画展示「文字がたなぐ―古代の日本列島と朝鮮半島―」図録解説』二〇一四年

一〇月 二〇九頁

「紫式部と『源氏物語』をめぐって」『本郷』No. 114 吉川弘文館 二〇一四年一月 八～一〇頁

「歴史に親しむ 平安貴族は激務の毎日」『ラジオ深夜便』二〇一四年二月号 五二～六二頁

「撰関期古記録データベースをめぐって」『国立歴史民俗博物館研究報告』第一九二集 二〇一四年二月 一八三～一九二頁

「近衛家の遺した日記、『御堂関白記』が世界記憶遺産になりました」『婦人画報』二〇一五年一月号 一二〇～一二四頁

「序に代えて―日記と古記録について―」『跋語に代えて―日記の総合的研究『The Synthetic Researches of Japanese Diaries』について』倉本

一宏編『日記・古記録の世界』思文閣出版 二〇一五年三月 i～vii頁、七五九～七六三頁

「『レコ室からこんばんは』から」『日文研』五四号 二〇一五年三月 三二～三八頁

フレデリック・クレインス

● 論文

「オランダ商館長と將軍謁見―野望、威信、挫折―笠谷和比古編『徳川社会と日本の近代化』思文閣出版 二〇一五年三月 五五～五七八頁

「『ファブリカ』にみる科学と芸術」『ヴェサリウス「ファブリカ」「エピトメ」解題』雄松堂書店 二〇一五年三月 一二～二五頁

佐野真由子

● 論文

「幕末最終章の外交儀礼」笠谷和比古編『徳川社会と日本の近代化』思文閣出版 二〇一五年三月 六四七〜六七九頁

● その他の執筆活動

「文化遺産の『国際的』保護——何が正しいのか」『月刊みんぱく』二〇一五年三月号（第三九卷第三号）一四〜一五頁

小松和彦

● 著書

『妖怪ランキング大辞典』（飯倉義之と共同監修）株式会社カンゼン 二〇一四年二月 一九二頁

『ジャパノロジー・コレクション 妖怪 YOKAI』（監修）株式会社KADOKAWA 二〇一五年一月 二〇六頁

『宝島SUGOI文庫 日本の妖怪』（飯倉義之と共同監修）宝島社 二〇一五年三月 一三九頁

『異人論とは何か——ストレンジャーの時代を生きる——』（山泰幸と共編著）ミネルヴァ書房 二〇一五年三月 三四四頁

● 論文

「序 妖怪研究の新たな出発にむけて——若干の回顧と展望」『国際研究集会報告書第四五集 「怪異・妖怪文化の伝統と創造——ウチとソトの視点から」 国際日本文化研究センター 二〇一五年一月 九〜一五頁

「いざなぎ流の神の表象——『自然』の擬人化を考える——」人間文化研究機構連携研究「自然と文化」事務局編『大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」最終年度成果報告書』大学共同利用機関法人人間文化研究機構

二〇一五年二月 一七九〜一九一頁

「教派神道と宗教者・芸能者」島蘭進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教 近世から近代へ四 勸進・参詣・祝祭』春秋社

二〇一五年三月 一七六〜二〇七頁

「はしがき」山泰幸・小松和彦編著『異人論とは何か——ストレンジャーの時代を生きる——』ミネルヴァ書房 二〇一五年三月 i〜iii頁

●その他の執筆活動

『書評』『道化の民俗学』『道化的世界』『文化と両義性』真島一郎・川村伸秀編『山口昌男 人類学的思考の沃野』東京外国語大学出版会 二〇一四年一〇月

「インタビュー 妖怪の系譜 なぜ日本人に愛され続けるのか」『日経エンタテイメント!』二〇一四年一二月号 日経BP社 二〇一四年一二月
「近藤雅樹さんの思い出」大國正美・水口千里編『魅せる!超フォークロア―近藤雅樹ワールドの探検―』神戸新聞総合出版センター 二〇一四年一二月

「インタビュー “引き出し”豊富な文化 妖怪研究の第一人者 小松和彦氏」『福井新聞』（朝刊）二〇一五年一月一日

「多摩丘陵の狸たちは敗れたが……」『ジブリの教科書八 総天然色漫画映画 平成狸合戦ぽんぽこ』文藝春秋 二〇一五年一月

『怪異』概念をめぐる覚え書き」天理大学考古学・民俗学研究室編『モノと凶像から探る怪異・妖怪の世界』勉誠出版 二〇一五年三月

「インタビュー 補論 異人論の時代」山泰幸・小松和彦編著『異人論とは何か―ストレンジャーの時代を生きる―』ミネルヴァ書房 二〇一五年三月

瀧井一博

●その他の執筆活動

「政治学の古典を読む（九） 明治人が読んだトクヴィル トクヴィル・松本礼二訳『アメリカのデモクラシー』岩波文庫 二〇〇五〜二〇〇八年」『究』一二月号（通巻第四四号）ミネルヴァ書房 二〇一四年一月 四四〜四五頁

「政治学の古典を読む（二〇） 日本政治（学）の泥臭さ 丸山眞男『現代政治の思想と行動』（増補版）未来社 一九六四年」『究』二月号（通巻第四七号）ミネルヴァ書房 四四〜四五頁

坪井秀人

●論文

「三好達治と戦争」『昭和文学研究』第六九集 昭和文学会 二〇一四年九月 二四〇三五頁
 「戦中戦後の跨ぎ方——〈国文学〉教育Ⅱ研究の場合——」『文学』第一五巻・第五号（二〇一四年九・一〇月号）岩波書店 二〇一四年九月
 六七〜八四頁

バトリシア・フィスター

●その他の執筆活動

“Book Review: *Hell-bent for Heaven in Tateyama mandara: Painting and Religious Practice at a Japanese Mountain*, written by Caroline Hirasawa,”
Journal of Religion in Japan 4: 1, 2015, pp. 70–73.

ジョン・ブリン

●論文

「靖国・関於戦後の天皇与神社」刘岳兵編著『日本的宗教与历史思想——以神道藻为中心』天津人民出版社 二〇一五年一月

●その他の執筆活動

「現代の言葉 神社と祭りの一〇月」『京都新聞』（夕刊）二〇一四年一〇月二〇日

「近代的聖地としての伊勢」神道国際学会編『出雲と伊勢—古代王権と聖なる空間—遷宮記念・国際神道セミナー』神道国際学会 二〇一四年
 一一月

「現代の言葉 降誕祭」『京都新聞』（夕刊）二〇一四年十二月一九日

「神社巡り④ 栗田神社」『神道フォーラム』Vol.50（平成二七年二月一日号）特定非営利活動法人神道国際学会 八頁

「書評 笠谷和比古著『武士道—侍社会の文化と倫理』エヌティティ出版 二〇一四年二月刊」『神道フォーラム』Vol.50（平成二七年二月一日
 号）特定非営利活動法人神道国際学会 九頁

「現代の言葉 京都の中の伊勢」『京都新聞』（夕刊）二〇一五年三月一六日

細川周平

● 論文

“音楽 Ongaku, Onkyō/Music, Sound.” *Review of Japanese Culture and Society* Vol. XXV December 2013 (Working Words: New Approaches to Japanese Studies), International Center for the Promotion of Art and Science (JICPAS), Josai University, pp. 9–20.

● その他の執筆活動

「月に託す」『新内志賀の会』語りの系譜Ⅲ プログラム』京都芸術センター 二〇一四年十一月

「書評 小沼純一『柴田南雄著作集第一巻』(国書刊行会)」「週刊読書人」二〇一四年十一月四日号

「CD解説『シカラムーターライブ二〇一四』」ディスクユニオン 二〇一四年十一月

「随筆 リカルド宇江木からの手紙」『ふろんていら』四三号 二〇一四年二月 二九〜三二頁

「シンポジウム 音楽批評に何ができるのか?」『平成二六年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業 お茶の水女子大学」ナレッジマネジメント力を核とするアートマネジメントスタッフの育成』事業報告書』お茶の水女子大学アートマネジメント事業推進室 七三〜九三頁

「時熟し、万感の思い込めてーザ・タイガース二〇一三(二〇一三年一月一七日、京セラドーム大阪)」『毎日新聞』二〇一三年二月二五

日付記事再録 磯前順一・黒崎浩行編著『ザ・タイガース研究論ー昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析』近代映画社

二〇一五年三月 一八五頁

松田利彦

● 著書

『植民地裁判資料の活用…韓国法院記録保存所所蔵・日本統治期朝鮮の民事判決文資料を用いて』(岡崎まゆみと共編著) 国際日本文化研究セン

ター 二〇一五年三月 一〇四頁

● 論文

「朝鮮学校の最近の变化를 둘러싼 諸問題」(韓国語) 청암대학교 재일코리아연구소編『재일코리아의 生活 文化와 變容』図書出版ソニン

二〇一四年一〇月 一〇五〜一三三頁

「志賀潔と植民地朝鮮」翰林大學校日本學研究所編『翰林日本学』第二五輯 翰林大學校日本學研究所 二〇一四年一二月 五〜三二頁（韓国語版は三三〜五八頁に所収）

【解説】朝鮮総督府初期の日本人官吏―形成過程・構造・心性』『東洋文化研究』第一七号 学習院大学東洋文化研究所 二〇一五年三月 一〇五〜一四九頁

●その他の執筆活動

「書評 トッド・ヘンリー著『ソウルを同化する―日本の支配と植民地朝鮮における公共空間の政治学 一九一〇〜一九四五年』」『日本研究』第五一集 二〇一五年三月 一九一〜一九五頁

山田奨治

●論文

「日本文化にみるコピペのルール」川上量生監修『角川インターネット講座四 ネットが生んだ文化 誰もが表現者の時代』株式会社KADOKAWA 二〇一四年一〇月 二〇九〜二三五頁

●その他の執筆活動

「インタビュー 現代模倣を斬る」『WASEDA LINKS』vol. 29 二〇一四年一〇月

「コメント サル 自分撮り、写真 著作権は誰のもの？」『讀賣新聞』二〇一四年一二月二日

「第三図書資料館（映像音響館）が竣工」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』No. 90 二〇一四年一二月

「書評 寒川恒夫著『日本武道と東洋思想』大陸を源にする混交文化」『山梨日日新聞』二〇一四年一二月一四日ほか一紙（共同通信社配信）
「マンガ・アニメで日本を研究する」劉建輝編『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題「ベトナムシンポジウム 二〇一三」』国際日本文化研究センター 二〇一五年三月 一三三〜一三九頁

「書評 途方もなく重い論点 四方田大彦著『怪奇映画天国アジア』共同通信文化部編『書評大全』三省堂 二〇一五年三月

マルクス・リュッターマン

● 著書

共編 *En Nexus: japanische Episoden übersetzt für die Ökumene* : Klaus Kracht zu Ehren aus Anlaß seiner Emeritierung, edited with Michael Kinski, Matthew Koenigsberg, Gerhard Leinss und Harald Salomon, Wiesbaden: Harrassowitz, 2013.

共編 *Japonica Humboldtiana. Jahrbuch der Mori-Oguri-Gedenkstätte Humboldt-Universität zu Berlin* vol. 16 (Jg. 2013), Wiesbaden: Harrassowitz, October 2014.

『近代日本の公と私「官と民」』(猪木武徳と共編) NTT出版 二〇一四年一〇月 四一二頁

● 論文

“Der ‚Brief im Munde‘ (Fukunijoo) und der ‚Brief vom Huetpass (Koshigoecioo).“ *En Nexus: japanische Episoden übersetzt für die Ökumene* : Klaus Kracht zu Ehren aus Anlaß seiner Emeritierung, ed. with Michael Kinski, Matthew Koenigsberg, Gerhard Leinss und Harald Salomon, Wiesbaden: Harrassowitz, 2013, pp. 19–44.

『往来物』とは何か——その概念形成についての「考察」鈴木貞美・劉建輝編『東アジアにおける知的交流——キイ・コンセプトの再検討——』国際日本文化研究センター 二〇一三年十一月 三〇三〜三二三頁

“Chapter 5: What does ‚Literature of Correspondence‘ Mean? An Examination of the Japanese Genre ‚Term örainono and its History.‛” edited by Matthias Hayek and Annick Horichi, *Listen, Copy, Read: Popular Learning in Early Modern Japan*, Leiden / Boston: Brill, September 2014, pp. 139–160.

「書簡の私的記号について」『問題と展望——公と私』の概念をよせて」猪木武徳・マルクス・リュッターマン編書『近代日本の公と私』官と民』NTT出版 二〇一四年一〇月 一九〜四四頁、四〇一〜四一〇頁

● その他の執筆活動

『過程』を視ること——火星と御月様の舞いの春にちなんで——『日文研』53号 国際日本文化研究センター 二〇一四年九月 二八〜三五頁

「まよがき」猪木武徳・マルクス・リュッターマン編書『近代日本の公と私』官と民』NTT出版 二〇一四年一〇月 i〜iii頁

書評 “Audienzen und Texte. Rezension zu Tomita Masahiro, Chūsei kuge seiji monjoron (Untersuchungen zum administrativen Korrespondenzschriftum des mittelalterlichen Hofadels),” *Japonica Humboldtiana* 16 (Jg. 2013), October 2014, pp. 235–255.

劉建輝

●著書

『日華学会関連高橋君平文書資料Ⅲ』（編著）国際日本文化研究センター 二〇一五年三月

『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題「ベトナムシンポジウム 二〇一三」』（編著）国際日本文化研究センター 二〇一五年三月

●論文

「地図と写真から見る満洲移民と現地社会」『人間文化——人間文化研究機構第二二回公開講演会「画像資料による日本人移民への新視点——満洲・ブラジル・南洋』Vol.21 人間文化研究機構 二〇一五年三月

●その他の執筆活動

「広辞苑編者の絵はがき——明治末期、欧州留学中の二五〇〇枚 人脈、世相映す」（インタビュー）『読売新聞』（大阪版・夕刊）二〇一四年二月四日

「岡部牧夫文庫目録——地域研究関係図書・資料——序文」井村哲郎編『岡部牧夫文庫目録——地域研究関係図書・資料——』国際日本文化研究センター 二〇一五年三月